Rits

立命館アジア太平洋大学
Ritsumeikan Asia Pacific University

PROGRESS REPORT

[季刊] 立命館アジア太平洋大学プログレス・レポート

1998年 春 第5号

SPRING 1998/vol. 5

九州からアジアへ、そして世界へ

(社)九州・山口経済連合会会長
九州電力株式会社取締役会長
大野　茂

来るべき新世紀が、いっそうの国際化と世界的規模での高度な情報化が進展する時代であるということはまぎれもない事実でしょう。また、一方で、二十一世紀はアジアが世界的に重要視される時代となることは衆目の一致するところであり、その中で日本がどのような役割を果たすかが極めて重要な課題となっています。

九州はその地理的条件から、古来よりアジアへの玄関口としての役割を担ってきました。このような歴史的経緯をふまえ、私は、九州がアジアの一員として独自の経済圏を形勢しつつ、日本とアジア諸国との交流拠点を目指すことが今後の九州のとるべき方向であると考えています。そのための課題のひとつが、

さまざまな意味での国際交流基盤を形成することであり、人材育成はその大きな柱になると考えています。

学生の半数を五〇カ国から迎える留学生で構成するという「立命館アジア太平洋大学」は、日本で初めての「真の国際大学」と言えます。アジア太平洋地域をはじめ世界の若者が国境を越えて共に学ぶことは、日本人学生そして留学生にとってかけがえのない経験となり、グローバルな視野で考え、世界を舞台に活躍できる人材がきっと育つことでしょう。まさに教育における国際貢献です。

私は、このような大学が九州にできることを大変光栄に思いますとともに、九州の地にできるこの新大学に対して、国内外の二〇〇名を越える先生方はじめ、多くの方々から温かいご支援を賜っていることは、非常に心強く有り難いことであり、この大学の社会的意義の大きさを改めて認識する次第です。

二十一世紀を間近に控え、明治維新や戦後の国家再建に匹敵する歴史的な転換点にあるわが国において、高等教育の新しい境地を切り開く「立命館アジア太平洋大学」の成功を心からお祈り致しますとともに、ここで学んだ世界の若者が九州そして日本を第二の故郷として世界に飛躍され、世界の繁栄と平和のために貢献されますことを期待しております。

立命館アジア太平洋大学アドバイザリー・コミッティ委員のみなさまへ

学校法人立命館理事長
川本八郎

新大学の設立へのご支援誠にありがとうございます。

九六年五月二三日にアドバイザリー・コミッティ設立総会を開催させていただいて早二年を迎えようとしております。委員の皆様におかれましては、「立命館アジア太平洋大学」の設立に向けて格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

「立命館アジア太平洋大学」の創設を社会的に公表いたしましたのが九五年九月。翌九六年五月、七四名でスタートいたしましたアドバイザリー・コミッティは、九八年四月現在、国内外の各界を代表される二一〇名を越える方々にご就任いただきましたことを、感謝の気持ちを込めてご報告させていただきます。

立命館アジア太平洋大学の理想を実現するには、委員のみなさまの叡知が不可欠です。

日本の高等教育界において「国際化」が声高に叫ばれて久しくなりますが、その点につきまして経済界はじめ各界の国際化の到達水準と比較いたしますと格段の遅れを取っていることは紛れもない事実であります。そのような認識のうえに、高等教育界の一端を担わせていただいております私どもが、二十一世紀に向けてなすべき使命として構想いたしましたのが「立命館アジア太平洋大学」です。

新大学が、既存の大学の枠組みを越え、時代と社会の要請に応える大学として出発・発展するためには、不断の検証と改革が不可欠です。形態・規模・内容においてわが国最初

立命館アジア太平洋大学設立へのあゆみ

1996年5月23日
アドバイザリー・コミッティ設立総会

1995年9月25日
立命館アジア太平洋大学新設共同記者会見

の取り組みとも言える新大学の創設にあたって、私どもは、①現実の世界、アジア太平洋地域の動向、実態をリアルに理解し、認識しておられる方、②二十一世紀に向けて、世界・アジア太平洋地域と日本の関係を将来的にどうあるべきかについて考えておられる方、③実際に日々そのような現実に直面しておられ、それぞれの分野で責任をもって取り組んでおられる方、こういった方々から学ぶ姿勢なくしてはこの新大学の成功はありえないと思料し、アドバイザリー・コミッティの設置を考えさせていただいた次第です。

数々のご助言、励ましにお応えすべく尽力して参ります。

この二年間、私は光栄にも多くの委員の先生方の謦咳に接する機会を頂戴いたしました。委員の先生方は、遠く三〇年後、五〇年後、一〇〇年後の日本、アジア、世界の有り様を見ておられ、単に新大学構想へのご賛同という域にとどまらない的確なご助言、温かい励まし、力強い支援のお言葉を頂戴し、胸が熱くなりましたことも幾度となくございます。

私ども新大学の創設に携わっております者にとりましては、先生方にご支持いただいておりますことが、新大学実現に向けての大きな力であり励ましでございます。開学いたしました後も、アドバイザリー・コミッティの存在そのものが、新大学が社会性・歴史性・国際性を先進的かつ健全に持ち続けるために大きな役割を果たして下さることと確信いたしております。

未来に生きる学生たちのため、今後ともご協力をお願いいたします。

この度の事業は、本学園にとりましては一〇〇年に一度ともいうべき事業であり、また高等教育おける未踏の地を目指すとも言えるものであります。「教育は国家百年の計」、木に例えれば、目に見えない土の中にしっかりと生き、幹を作り枝を育て、花を咲かせ実を創る根であると思います。未来に生きる学生たちのため、また皆様の温かいご支援にお応えできますよう、関係者一同全力を尽くす覚悟でございます。開学まで二年をきり、いよいよ九月には文部省に対し設置認可の第一次申請をいたします。今後とも、倍旧のご指導ご鞭撻のほど切にお願い申し上げます。

1997年10月18日
設置事業造成工事起工式

1997年5月28日［東京］、6月10日［大阪］
アドバイザリー・コミッティ幹事会

1997年4月12日
設置基本協定調印式

カナダ首相ジャン・クレティエン閣下からのメッセージ

アドバイザリー・コミッティ就任ご承諾親書から、
立命館アジア太平洋大学にいただいたメッセージをご紹介します。

立命館大学長
大南正瑛様

立命館アジア太平洋大学アドバイザリー・コミッティの名誉委員に喜んで就任いたします。

アジア太平洋地域から広く研究・教育者や学生を集め、国際的な学術協力を進めようという立命館の目的は素晴らしいもので、深く共感します。この地域は、非常に多様な文化と言語と人種を擁しています。現在、各国がAPECを通じて経済的な協力関係を深め、この地域内の差異を埋めようとしているように、大学も、アジア太平洋地域の豊かな、それでいて複雑な多様性について認識・理解を深めていくことに貢献すべきです。崇高な目標を掲げられた立命館に心からの敬意を表します。

立命館アジア太平洋大学の設立を祝します。

Jean Chrétien署

Dear Mr.Ohnami :

I am pleased to accept your offer to serve as Honorary Advisor to Ritsumeikan Asia Pacific University.

Ritsumeikan's objective of promoting International academic collaboration through bringing together academics and students from across the Asia-Pacific region is both intriguing and compelling. The region encompasses a vast diversity of cultures, languages and races. Just as nations are now developing an economic association, through APEC, to bridge these differences, so too must universities bring greater awareness and understanding to this rich, but complex regional diversity. It is to your considerable credit that Ritsumeikan has set itself what should be a most rewarding goal.

I congratulate you on the formation of Ritsumeikan Asia Pacific University.

Jean Chrétien, Prime Minister of Canada

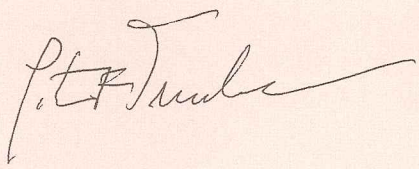
ピーター・F・ドラッカー博士より 立命館アジア太平洋大学へメッセージ

経営学、文明評論の世界的な泰斗、ピーター・F・ドラッカー博士より 立命館アジア太平洋大学の趣旨に賛同し、メッセージが寄せられました。

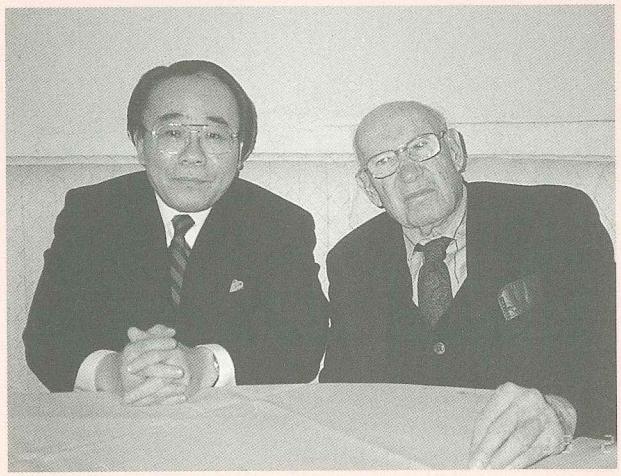
立命館アジア太平洋大学が成し遂げようとしていること、すなわち高等教育を通じてアジア太平洋地域を融合することは、世界の経済や社会にとって最も重要な仕事です。それによって、この地域の経済的成功を達成するための、人間的基盤が築かれるのです。（ピーター・F・ドラッカー）

What Ritsumeikan Asia Pacific University is going to do—to integrate the Asia-Pacific region through advanced education — is the most important task in the world economy and world society. It promises to provide the region with the human foundation for its economic success.

My best wishes,



Peter F. Drucker
Claremont, California
February 9, 1998



右：ピーター・F・ドラッカー博士
左：坂本和一・立命館アジア太平洋大学学長予定者

ピーター・F・ドラッカー博士プロフィール

米国クレアモント大学大学院教授。経営学、文明評論、経営コンサルティングの世界的な泰斗。

1909年、オーストリア・ウィーンに生まれる。ドイツ・フランクフルト大学で国際公法の博士学位取得。

ナチスの迫害を逃れて、英国、さらに米国に渡る。1939年『経済人の終わり』、42年『産業人の未来』を著し、ナチスを分析したものとして好評を博す。また45年、GMの組織革新を分析した『会社という概念』を刊行し、当時の企業革新に大きな影響を及ぼす。

1950年ニューヨーク大学経営大学院教授に就任。1954年『現代の経営』、64年『創造する経営者』、67年『経営者の条件』など、今日では古典となった著書により経営学者として名声を博す。

その後、69年『断絶の時代』、74年『マネジメント』、76年『見えざる革命』、85年『イノベーションと企業家精神』、89年『新しい現実』、90年『非営利組織の経営』、93年『ポスト資本主義社会』、93年『すでに起こった未来』など、その都度世界的に大きな話題を巻き起こした多数の著作を著し、今日も精力的に著作活動、経営コンサルタント活動を続けている。著作の多くは、すでに20カ国以上の言語に翻訳されている。

1971年よりクレアモント大学大学院の社会科学、経営学の教授となり、現在に至る。

立命館アジア太平洋大学は21世紀の教育モデル

金　政炫

立命館アジア太平洋大学設置委員会顧問
アジア太平洋研究センター副所長（客員教授）
工学博士　元韓国環境庁次官

今、地球上のすべての領域で、次の世紀を催促するが如き、変化の波が、目には見えないが、じわじわと押し寄せてくるのを感じさせます。今、私達は、短くは10年、永くは100年、もっと永くは1000年先に思いを馳せながら、21世紀を迎えようとしています。

現代社会は、コンピュータネットワークの発達した高度のハイテク社会であります。単純作業や危険な仕事はコンピュータが請負い、人間が「人間らしい」仕事に専念できる環境が形成されつつあります。学校法人立命館が新たに立命館アジア太平洋大学を設立するのも、こうした流れの一環であろうと思います。

2000年4月に開学を予定している立命館アジア太平洋大学には、それぞれ生活、文化、言語、宗教、思想および思考が異なる異文化圏の若者たちが、世界50カ国から、毎年400名ずつ集まります。彼らは、日本人学生400名と同じ教室で、個人を尊重し、相互理解を深め、解決すべき問題をそれぞれの角度から研究し、議論します。そしてこれを通して、未知の世紀における「新たな人間社会の創造」、世界の恒久的平和の構築と人間社会の恒久的繁栄に寄与する指導者、中核人物になるべき人材が養成されると期待されます。

これまでの世界の大学は、ほとんどが論理、記憶、分析等をつかさどる左脳の活用だけを偏重していたのですが、立命館アジア太平洋大学は、想像力、創造力、直感力および実行力などを働かせる、右脳の活用も同時に重要視する教育をすすめます。これによって、不確実性やあいまいさなどにもうまく適応できる能力をつけさせます。この新大学は、巨視的な指導者を養成する、21世紀の新しい教育のモデルとなることでしょう。

世界にはさまざまな一流大学があり、数百年の歴史をもつ大学もあります。そして、それらの大学の卒業生はそれぞれ社会での指導的立場にあります。立命館アジア太平洋大学は新設ですが、それらの大学よりもずっと優れた教育内容、教育方法、教育システムの導入と、多様な入学制度、整備された奨学金やインターンシップ制度などによって、特級の大学として世界に君臨することでありましょう。

THE UNIVERSITY OF TWENTY-FIRST CENTURY

サティア・ブッシャナ・ヴァルマ博士

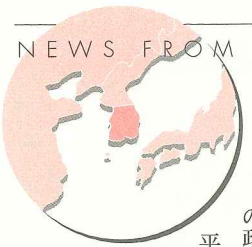
ジャワハラル・ネルー大学（インド）
東アジア言語センター名誉教授

21世紀はもうすぐそこに来ています。20世紀は瓦礫と戦争、流血の世紀でした。また我々は、今世紀に2つの世界戦争と、核兵器やその他の殺人兵器の開発、経済の不均衡を経験してきました。技術革新と経済のグローバル化に伴い、今後のより良い世界秩序を構築するため、世界はいま平和と国際協調を必要としています。古代からのインド哲学では、世界で人類がひとつの家族として平和、幸福、繁栄のうちに生きていかねばならないと説いています。この目的を達成するためには、多様な文化や社会間の相互理解を図る必要があります。

アジア太平洋地域は急激に変化しており、新しい世界の枠組みの中におけるその重要性は無視できないものとなっています。技術面で最先端をいく日本は、アジア太平洋地域の発展に重要な役割を果たすだけでなく、世界秩序の構築に多大な貢献ができるような人材をも擁しています。いま建設中のアジア太平洋大学がこのような認識を高め、21世紀のニーズに見合った人材を育成するための世界的な拠点として、大きな目標にむけて前進を始めたことは、まさに時宜にかなったものと信じています。

新しく誕生するアジア太平洋大学を心から歓迎するとともに、アジア太平洋地域をはじめとする世界中のあらゆる国々から集まった若い人材がこの大学の強みとなり、平和と協調、友好に溢れた国際社会の発展に寄与することを切に願います。

NEWS FROM KOREA



立命館アジア太平洋大学設置準備 韓国事務所オープン

このたび、立命館アジア太平洋大学開学事業を一層推進するために、学校法人立命館として、初の海外事務所を五月より韓国に設置することになりました。アジア・太平洋地域を核とする本学園の国際的ネットワークを強化するためには、持続的系統的な取り組みを行う海外拠点が必要です。「立命館アジア太平洋大学開設準備・韓国事務所」はその最初の拠点となります。

韓国は、現在は未曾有の経済危機に見舞われているとはいえ、これまで度重なる困難を乗りこえ、民主的な社会体制を整え、飛躍的な経済発展を遂げてきた国です。また、韓国と日本は、お互いに歴史、文化、政治、経済あらゆる面において最も密接な関係を持つ隣国であります。さらに二十一世紀に向けては、サッカー・ワールドカップの共同開催など、日韓の新しい友好の時代が築かれようとしています。

また、本学園は、近年の国際化の取り組みを通して、九〇年代以降から急速に、韓国との関係を深めています。①ソウル大学をはじめとする六大学との協定締結をはじめ、韓国の高等教育機関との教育・研究、文化・スポーツ分野での活発な交流、②現在八〇名を越える留学生の受け入れと多数の卒業生の輩出、③戦後五〇年を期に、戦時下で本学を卒業できなかった方々への特別卒業証書の授与、などを行ってきました。このように今日、本学園としても最も深い関係を有する国のひとつとなっている韓国に拠点を置くことは、これまでの到達点をさらに飛躍させることになることでしょう。

この「立命館アジア太平洋大学設置準備・韓国事務所」の任務は、なによりも、韓国の高等学校とのネットワークをより緊密なものにし、優秀な学生を立命館アジア太平洋大学に迎えることにあります。また、高等学校のみならず日・韓の政府機関、経済団体、協定大学、日系企業、韓国企業などに立命館アジア太平洋大学に関する情報を発信することも事務所の大きな役割です。さらに韓国在住の卒業生や学園関係者はじめ、多くの方々が気軽に立ち寄り、相互の交流を促進できればと考えております。

■立命館アジア太平洋大学設置準備・韓国事務所
所在地 ソウル特別市瑞草区瑞草洞1305-8東一ビルディング8階802号
＊韓国の「新都心」江南（カンナム）の目抜き通りに面する大変便利なところです
TEL. 02-568-8288　FAX. 02-568-8260
初代事務所長　金　政炫（立命館大学客員教授・元韓国環境庁次官）

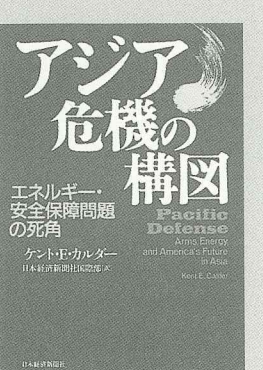
BOOK REVIEW

ブック・レビュー

『アジア危機の構造』

ケント・E・カルダー 著

日本経済新聞／1996年4月刊（97年度アジア太平洋賞受賞）



複雑なアジア危機の構図をエネルギー・安全保障問題の視点から総合的・戦略的に述べた著作です。アジア太平洋地域の安全を脅かす3要因を、「北東アジアの危険な三日月地帯」という「地政学」的概念、「資源・エネルギー問題」という切口での安全保障、そして「民主主義と外交問題」と規定しています。アジア太平洋地域における防衛問題が今後経済的側面において重要になることを実証的な手法で詳細に明らかにしています。日本への深い理解を基礎としながらも、今日の日本の危険な政策的欠陥を大胆に指摘し、太平洋地域の将来に備えるための具体的指針を示しています。昨年より始まったアジア通貨危機のなかで、さらに来るべき21世紀のアジア太平洋の構図を正しく理解するための好著です。

大分・別府における活動報告

1997年12月1日に立命館アジア太平洋大学開設事務局大分・別府事務所（以下、別府事務所と記述）が開設されて約5ヵ月が経過しました。
ここでは、この間の別府事務所の活動を振り返ってみたいと思います。

人的なネットワークの拡大

昨年一二月一日の別府事務所開設および職員常駐体制の確立によって、立命館アジア太平洋大学が設置される別府市に「立命館の拠点」ができました。

「いよいよ新大学の取り組みも本格化する」「立命館がよりいっそう身近な存在になる」「いろいろなご苦労もあろうが頑張ってください」これらは、この事務所開設にあたって寄せられた地元の市民の方々からの声です。

地元から愛される立命館づくりとともに新大学の開学に向けた地元での準備にあたるのが、別府事務所の大きな役割です。

地元での人的なネットワークは一，二〇〇名に及びます。

住居確保の取り組み

新大学開学に向けた地元での準備業務課題の中で最も大きな課題は、学生（留学生を含む）および教職員の生活基盤の保証となる別府地域での住居の確保を行っていくことです。

量的な見通しとしては、完成年度では約四，〇〇〇名の学生、約一五〇名におよぶ教職員に対応した住居が必要となります。現在、別府地域では別府大学（学生総数一，四三二名）および別府女子短期大学（学生総数四三〇名）の学生用を含めて単身者向けのアパート、マンション等が一定数整備されています。現状は、概ね需要と供給のバランスがとれた状況にあり、最近では一ＤＫタイプの個室型マンション（一棟二〇室から四〇室程度）の建設が徐々に進められてきています。

新大学キャンパス内で、約五〇〇名規模の学生用の住居・セミナー室等の独自の建設を念頭に置きつつも、開設年度までに約三〇〇室、その後完成年度までに全体として約三，五〇〇室の優良な物件を確保していくことが必要となります。

この間の調査では、別府地域内に必要住居を確保するための遊休地や転用可能用地が点在しており、今後は、その潜在的な可能性を地元の協力を得ながら現実的な整備計画にしていくことが求められます。

別府事務所では、国際学生都市別府の新たなまちづくりにも連動しつつ安価で優良な住居を先行的に確保する「モデルハウジングプラン」に着手することが重要となると考えています。そのためには、地元金融機関、宅建業協会、建設業協会などとも連携して「住宅セミナー」の開催を計画し、優良オーナーの開拓を行っていくことが課題となります。

教職員用住居の確保にあたっては、着任予定者の家族構成や赴任形態に対応した優良物件の情報収集に努めています。

留学生支援の取り組み

留学生支援の土壌を形成する課題も地元での新大学開設準備の重要な課題です。

別府地域では、別府留学生援護会が、別府大学をはじめ既存大学の留学生との交流活動、支援活動を積極的に展開しています。別府商工

会議所青年部も「留学生サポートショップ」制度を発足し、加盟の店舗で五～五〇％オフで買い物やサービスが受けられる便宜をはかったり、アルバイトやホームステイの受け入れを行っています。

別府事務所では、こうした支援団体・グループとの恒常的な連絡と連携をはかりながら、支援体制の確立に向けた取り組みを重視しています。

二月九日には別府事務所「学習セミナー」を開催し、留学生の宿舎保証で先進的な取り組みを行っている福岡地域での事例報告を受けました（講師：福岡国際交流協会　高松正和企画交流係長、テーマ：留学生の宿舎保証について――福岡地域留学生交流推進協議会の取り組みより）。

一方、大分県は九八年度予算において文部省の「留学生交流モデル地域推進事業」の認定を念頭に置いて一，三〇〇万円の計上をしました。二〇〇〇年度までの三カ年の事業計画で予算総額は三，九〇〇万円となります。当面は、検討委員会の設置と課題整理が重点となりますがこうした行政サイドの動きを民間サイドでの動きによって側面的に促進しつつ、国際学生都市別府にふさわしい受け入れ条件の整備や土壌をつくっていくことが重要となります。

大学を核とした別府まちづくりへの対応

立命館アジア太平洋大学の設置を契機として、別府市は構造的な都市計画の再構築をはかろうとしてます。すなわち、これまでの温泉を資源とする観光都市としての展開を新たな視点から行うと同時に「国際学生都市別府」として備えるべきまちづくり全体のマスタープラン化の検討が重要な市政課題となっているのです。

別府事務所では、こういった動きに貢献すべく、九七年一二月二日に「学習セミナー」を開催しました（講師：リムボン本学産業社会学部助教授、テーマ：市民と大学で創る新しいまち――別府・世界観光都市の未来像）。また、九八年二月一七日の青年会議所例会では特別

二十一世紀別府発展の核となる新大学

別府市長　井上信幸

観光振興以外に新しい要素を加えた「国際観光学術文化温泉都市」づくりが今後の別府市の大きな目標です。その核となるのが立命館アジア太平洋大学です。

このため、市は市議会の同意を得て、新大学に対し、四一・六ヘクタールの市有地の無償提供と、四二億円を限度とした財政支援を決めております。また、新大学の建設と受入れ体制を民間の立場からも促進するため、一昨年二月には別府商工会議所会頭を長とする「立命館アジア太平洋大学設置期成同盟会」も発足しております。さらに、一昨年四月に市の企画部内に設置した大学誘致推進室を本年度からさらに拡充、秘書広報課に属していた国際交流係を同室に吸収し、留学生の受入れ対策にも万全を期すことにしております。

私としては現段階で最も重要なことは、新大学の誘致が今後の別府発展のためにいかに必要かを市民に十分に理解していただくことだと考えています。このため、市報べっぷで新大学に関する特集を何度も組んだり、市内各所で説明会を開催するなどしてきました。

新大学に対する別府市民の期待度は日に日に高まっており、私としては新大学の開学準備を当面の市政の最重要課題として、全力で取り組んでおります。

講演会への講師を派遣しました（講師：中村正産業社会学部助教授、テーマ：バリアフリー観光への提言）。

こうした取り組みは、別府の活性化・振興策を真剣に考えている層から大きく歓迎され、「新たな視野を持てた」「小さなことでも具体化していきたい」「具体的なアイデアやヒントが聞けて良かった」などの評価を得てきています。

地域との連携

新大学が開設されていない現段階において、立命館大学・立命館学園の全体状況、および学生の生き生きした学生生活像をより良く理解していただく活動は、新大学に対する期待を醸成する上でも大事なことです。そのためには、市民レベルで参加できるスポーツや文化的な取り組みを通じて立命館大学に接する機会を数多く持つことが有益だと考えています。

九七年度は、夏季のアメリカンフットボール部の別府合宿、冬の花火ファンタジアへの応援団チアリーダー部・吹奏楽部の出演、二月の交響楽団別府特別演奏会の開催などが行われ、学生諸君の奮闘もあり好評を博しました。とりわけ、一五万人の来場があったクリスマス花火ファンタジアでの市民と一体となったステージ出演や一一〇〇名の観客を得た学生オーケストラの別府特別演奏会は、演奏や演舞のレベルも高く、市民から大きく歓迎されました。地元マスコミも評価の高いコメントをつけて報道しました。

市民レベルでの立命館理解の形成にとって、学生諸団体の別府での活動展開と同時に、教員の別府での講演会開催も重要な課題となります。

六月からは、「立命館おおいた講座」を開催していく予定です。

立命館おおいた講座［1998年度］

▼第1回　6月13日（土）
超能力の舞台裏――平和学者がオカルト批判に取り組むわけ
安齋育郎
（立命館大学国際平和ミュージアム館長・立命館大学国際関係学部教授）

▼第2回　7月18日（土）
21世紀の観光とアジア太平洋
小方昌勝（国際観光振興会　JNTO理事）

▼第3回　10月3日（土）
「趣味人」はなぜ抹殺されたのか
木津川計（立命館大学産業社会学部教授）

▼第4回　11月14日（土）
21世紀のロボットとメカトロニクス
有本　卓（立命館大学理工学部教授）

▼第5回　12月12日（土）
筑紫君磐井と継体大王――最近の古墳調査から
和田晴吾（立命館大学文学部教授）

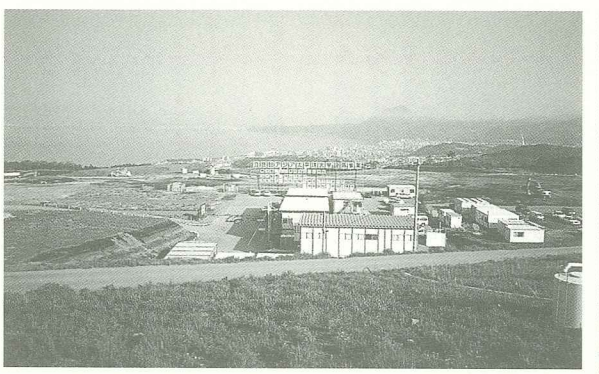
於：別府市　ビーコンプラザ

立命館
歴史紹介
シリーズ
［第5回］

理学と工学の統一から文理融合型へ

二十一世紀を展望し、
エコノミクス・ビジネス・テクノロジーの
学際的融合をめざす！

キャンパス建設の進捗



キャンパス建設は、昨年一〇月の工事着工より現在まで、順調に推移しています。三月末には防災工事を終了し、造成工事の後、本年秋には本格的な建物建築を行っていくスケジュールです。

地元自治会役員・関係市会議員等への進捗状況の説明を趣旨とした「地域連絡会」を二月二四日に開催しました。環境面や防災面でも工事がつつがなく進捗している状況を現場で直接確認していただきました。

結び

別府事務所の約五ヵ月間の取り組みを駆け足で振り返ってみました。地元でのネットワークの拡大と立命館に関する市民のご理解、マスコミ対応、まちづくりに向けた課題設定などについて様々な取り組みを展開してきました。このことにより、地元での事務所設置の第一段階の役割はほぼ達成できたと考えています。

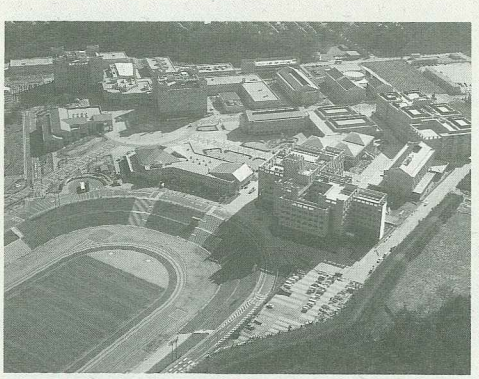
今後は、新大学の開学を二年後に控えて、より具体的で現実的な課題を遂行していくことが求められています。

（大分・別府事務所　所長　川口　潔）

立命館アジア太平洋大学開設事務局　大分・別府事務所
〒874－0838　大分県別府市荘園町9－1
TEL／0977－27－2006　FAX／0977－27－2008

理工学部の創設は、一九三八（昭和十三）年一月、京都帝国大学電気工学科教室にあった「私立電気工学講習所」を継承したことに始まります。創立者中川小十郎は、繊維から機械・金属工業へと、急激にとって変わりつつあった当時の産業構造の変化に対応して、工業学校の設立を構想していましたが、工業科ともなれば施設・設備の準備も容易ならず、財力に乏しい私学が素手で立ち向かうことは不可能でした。幸い、その「講習所」が独立を計画していることが分かりました。校地は、衣笠山の山麓に、殆どを借地に頼って「立命館高等工科学校」を開学させました。現在の衣笠キャンパスの濫觴です。こうして地歩を固めてきた戦前のこの専門学校は、新学制のもとで理学と工学とを統一させた理工学部として再出発しました。

一九九四（平成六）年に「びわこ・くさつキャンパス」（BKC）へ新展開した理工学部は、ことし創設六〇年を迎えます。時あたかもよし。今春、経済・経営学部をBKCに迎え、エコノミクス・ビジネス・テクノロジーの融合をコンセプトに、総合大学としての新しい境地を開拓します。



びわこ・くさつキャンパス

インドネシアで記者発表

去る一月二三日、ジャカルタのサリパンパシフィックホテルにおいて、立命館アジア太平洋大学設立の趣旨と内容、インドネシアからの留学生受け入れの取り組みを紹介する記者会見行いました。会見には、インドネシア六紙が取材に訪れました。また、すでに協力表明をいただいた高校五校や日本大使館、国際交流基金ジャカルタ日本センター、日本国際教育協会、大分県人会からもご出席いただきました。本学からは、坂本和一副総長、木村一信文学部教授が出席し、記者発表を行い、また現地の三校の高校の先生からも力強い賛同と支持の発言をいただきました。翌日の新聞には、大きな写真とともに「創立一〇〇周年を記念して、学校法人立命館が新大学を設立」と報道されました。

韓国・蔚山大学校と立命館大学が交流協定を締結

このほど、韓国・蔚山大学校と立命館大学が、交流協定を締結することになり、坂本副総長（立命館アジア太平洋大学学長予定者）が、去る二月二〇日、蔚山大学を訪問しました。

訪問した日は、ちょうど蔚山大学校の卒業式にあたり、坂本副総長は、卒業式にも、来賓として出席し、民族衣装、花束などで、あざやかに彩られた会場で、卒業生、大学関係者、家族を前に、立命館を代表して、祝辞を述べました。

このあと、坂本副総長は、鄭夢準蔚山大学校理事長（現代重工業会長・FIFA副会長）と懇談。その際、平松守彦大分県知事のお口添えも頂戴して、国際アドバイザリーコミッティーへの就任をご快諾いただきました。

調印式は、具本湖総長をはじめ、蔚山大学校関係者、地元マスコミが多数出席しておこなわれました。調印を取り交わしたあと、坂本副総長、具本湖総長より、交流を通じた両校の発展と日韓友好の促進への決意が表明されました。

ユーチェンコ駐日フィリピン大使が立命館大学をご来訪

去る三月一一日、一二日の両日、アルフォンソT．ユーチェンコ駐日フィリピン大使が立命館大学を訪問、ご令室テレーザさんと孫娘アイミーさんがご同行されました。

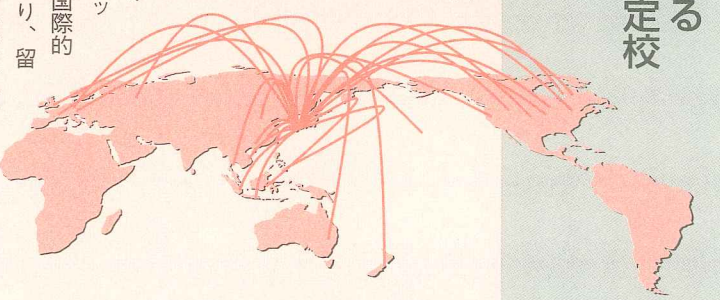
大南正瑛立命館総長は、九七年三月からフィリピン共和国名誉領事に就任しています。

大使ご一行の今回のご訪問の主要な目的は、立命館大学アカデメイア21内に開設した「京都フィリピン名誉領事館」の視察でした。大南総長の案内で名誉領事館ならびに併設の国際平和ミュージアムを見学された後、坂本和一立命館アジア太平洋大学学長予定者を含めてご懇談いただきました。

ご懇談のなかで、大使は改めて新大学の国際的意義について述べられ、「留学生の派遣をはじめ新大学への協力を惜しまない。またそのことが日比両国の友好関係を強めることに大きく寄与することになると確信している」と、力強いお言葉を頂戴いたしました。

また、翌十二日には、滋賀県草津市にある立命館大学びわこ・くさつキャンパスをご視察されました。

さらに拡大する海外協力・協定校



立命館アジア太平洋大学は、グローバルスタンダードを視野に入れた真の国際大学として、かつネットワークにより支えられる大学として創設することを目指しています。そのためには社会的ネットワークとともに国際的ネットワークにより、留学生や外国人教員の受入れ、斬新な教育システムの開拓、大学間協定にもとづく留学制度等の教育システムの相互乗り入れ、教員の研究交流など世界に通用するレベルでのアジア太平洋研究等の課題を具体化して行く予定です。

本プログレスレポート前号において、四六の海外協力・協定校を紹介させていただきました。その後、タイを代表する研究機関であるタイ国立開発行政研究院、ベトナムの国家機関で文部省に相当するベトナム教育訓練省、韓国を代表する梨花女子大学校、蔚山大学校と新たに協力協定を締結しました。

さらに、中国の復旦大学、中山大学、インドのデリー大学、ジャワハラル・ネルー大学、ベトナムのフエ大学、フィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学、タイのシャム大学と近々に協力協定締結を予定しており、本学の協力・協定校は五〇大学・機関を越えることとなります。

訃報

舘 豊夫委員 ご逝去

立命館アジア太平洋大学アドバイザリー・コミッティ委員をお務めいただいておりました舘 豊夫先生（三菱自動車工業株式会社 相談役）が去る四月九日ご逝去されました。

舘先生は、九六年五月に委員にご就任いただき、その後多くの先生方をご紹介下さいました。先生にはアドバイザリー・コミッティの輪を広げるうえでお力添えをいただくとともに、留学生への具体的支援についてもご協力を賜わりました。

舘豊夫先生に改めて感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

[編集後記]

先生方には立命館アジア太平洋大学 アドバイザリー・コミッティにご就任いただき、心より御礼申し上げます。

開学まであと2年をきり、9月の文部省申請も間近に迫りました。
次回プログレスレポート夏号におきましては申請直前の取組の状況を詳細にご報告させていただく予定でございます。

今回からアンケート用紙を同封させていただきました。新大学開設に生かしてまいりたく存じます。
率直なご意見等お寄せいただければ幸いでございます。恐縮ですが何卒よろしくお願い申し上げます。

立命館アジア太平洋大学学長予定者　坂本 和一

発行：学校法人立命館
〒603-8577京都市北区等持院北町56－1
TEL.075-465-8366（理事長室）